

## 環境活動支援センターえこらぼの活動

(環境共生課)

### 1 概要

県民の行う環境活動に対する支援や環境学習及び地球温暖化防止活動の推進拠点となる「環境活動支援センターえこらぼ」は、平成18年4月に開設され、環境情報の発信や環境学習講師の派遣、環境イベントの開催などの事業を実施しています。

### 2 平成30年度の主な活動実績

#### (1) 情報発信

メールマガジンやホームページなどで、イベント情報の紹介や、環境活動団体及び環境学習講師の情報を提供しました。

#### (2) 環境学習の支援

環境学習講師の紹介・派遣により地域や学校での環境学習の支援を行いました。

また、環境学習の機会を提供するため、環境絵日記コンテストを開催しました。

更に、環境省が行うこどもエコクラブ事業の県事務局として、こども達が地域の中で楽しみながら自主的に行う環境学習や実践活動を支援しました。

#### ア 環境学習講師派遣

学校や地域のイベントなどへ、えこらぼに登録している環境学習講師を紹介・派遣しました。

講師紹介・派遣件数：42件

環境学習受講者数：2,121人

#### イ 環境絵日記コンテスト

県内の小学生を対象に、環境について考え、行動したことを絵日記に表現することで環境への意識や理解を育むことを目的とした、「環境絵日記コンテスト」を実施しました。

応募作品数：4,160作品



高知「環境絵日記」表彰式

### ウ こどもエコクラブ事業

平成31年2月3日に開催しました「こうち環境博2019」において、こどもエコクラブ壁新聞展と交流発表会を行いました。

また、こどもエコクラブ全国エコ活コンクール 壁新聞部門において、香美市こどもエコクラブ みどりサイクルの作品「世界一楽しいのはエコクラブ」が環境大臣賞を受賞し、平成31年3月24日(日)に開催された「こどもエコクラブ全国フェスティバル」で表彰されました。

こどもエコクラブ登録数 12クラブ  
(平成31年3月31日現在)



こどもエコクラブ全国フェスティバル

#### (3) 環境学習プログラムリストの作成

学校・地域における環境学習機会の提供を拡大するため、学校向け・社会人向けの環境学習プログラムリストを作成しました。

・小学生向けプログラムリスト

配布先：高知県内の小学校 203校

高知県・各市町村教育委員会

・社会人向けプログラムリスト

配布先：高知県・各市町村教育委員会など

#### (4) 生物多様性こうち戦略推進リーダー養成講座

生物多様性の保全、普及、推進のための人材の育成を行いました。

・高知市会場

日時：平成30年9月2日(日)

受講者：14名

・四万十市会場

日時：平成30年9月9日(日)

受講者：11名

**(5) 環境イベントの開催**

環境活動団体や環境学習講師の活動を紹介するとともに、学校や生涯学習の場への講師派遣の普及を目的とした体験型環境学習イベントを開催しました。

日時：平成30年12月8日（土）

会場：室戸世界ジオパークセンター

来場者：350人

**(6) こうちエコ川柳大賞**

県内の自然環境、環境問題、エコに関する体験談などを五・七・五の川柳で表現するエコ川柳を募集し、応募作品について選考会を行い、大賞1作品、優秀賞3作品、入賞10作品を選考しました。

## ・第3回こうちエコ川柳

応募期間：平成30年4月16日～5月15日

応募作品数：209作品

大賞：おさがりの服

お姉ちゃんの匂い ちよつとする

## ・第4回こうちエコ川柳

応募期間：平成30年10月15日～11月15日

応募作品数：171作品

大賞：温暖化 スピードあげて 攻めてくる

**環境活動支援センターえこらぼ**

平成30年度管理運営団体

特定非営利活動法人 環境の杜こうち

所在地：高知市旭町3丁目115番地

こうち男女共同参画センター3F

TEL：088-802-7765

FAX：088-802-2205

E-Mail：center@ecolabo-kochi.jp



## コクヨ-四万十 結の森 プロジェクトへの参加

(高等学校課・四万十高校生)

### 1 概要

四万十高校は、平成11年から「自然環境コース」を普通科に設置し、高知県の恵まれた自然環境を生かした環境教育に関する取組を積極的に行っています。

これまでに「森と川と海のつながりフィールドワーク」、「屋久島研修」、「黒尊研修」など幅広く環境学習を行ってきました。

### 2 施策の展開

#### (実施した取組)

コクヨ-四万十 結の森プロジェクト

#### (1) 目的

森と川と海のつながりや、自然と地域のつながりを知り、四万十川周辺の環境を考え行動する人材となる。

#### (2) 主催

コクヨ株式会社・四万十町森林組合  
高知県立四万十高等学校

#### (3) 開催日

平成30年9月8日(土)・9日(日)  
平成30年11月23日(金)

#### (4) 開催場所

四万十町大正、四万十町窪川

#### (5) 実施内容

- ア 大正集成材工場・四万十町総合庁舎見学  
参加者 36名
- イ 調査報告会
  - ・結の森の活動
  - ・平成29年度調査結果
 参加者 33名
- ウ 植生調査  
参加者 28名



集成材工場見学 (四万十町大正)



結の森植生調査 (四万十町大正)



結の森植生調査 (四万十町大正)

## 地球環境や風力発電の出前授業

(公営企業局電気工水課)

### 平成 30 年度 出前授業実績

- ・実施回数：8回
- ・受講生徒数：延べ160名  
(その他、教員・保護者多数受講)

#### 1 概要

公営企業局は、甬喜ヶ峰風力発電所（平成16年運転開始、2基）で、地球環境にやさしい風力発電所を運営しています。

また、風力発電を通して子どもたちに地球環境への関心を持ってもらうことを目的として、職員が学校に出向き「風力エネルギー出前授業」を実施しています。

ここ数年は、県立香北青少年の家で行われている小学校5年生を対象とした宿泊研修の一コマとしても、この出前授業を活用していただいています。

#### 2 体験を通じた学習

出前授業では、まず風力発電や環境問題についての基礎的な講義を行います。講義は、受講される子どもたちの学年を考慮した内容で実施しています。

講義終了後は、ペットボトルで風車の羽根を作成してもらいます。この羽根を風の力で回して電気を起こし、発電量を計る実験を行っています。

また、授業で作成していただいた風車の羽根をご家庭の扇風機などで楽しめるように公営企業局オリジナルの手持ち棒を配布しています。

その他、公営企業局では「風力エネルギーブックレット」を作成しており、風力発電や再生可能エネルギーについてわかりやすく学習していただけるよう、出前授業の際に冊子の配布を行っています。

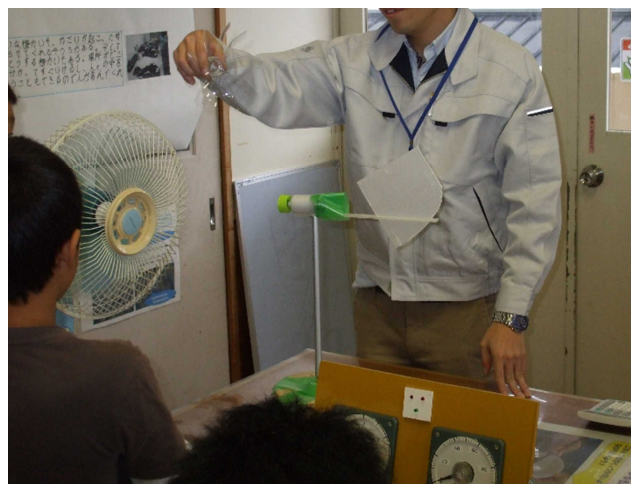
なお、出前授業の詳細な内容や申し込み方法については、公営企業局電気工水課のホームページに掲載しています。

#### ※出前授業のご案内

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/koueikigyou-chiiki-demae.html>



出前授業の様子



ペットボトル風車の発電量測定風景



ペットボトル風車の羽根と手持ち棒



## 自然体験活動企画担当者セミナー

(生涯学習課)

### 1 概要

森のようちえんをはじめとした、幼少期の子どもを含む青少年向けの自然体験活動プログラムの企画・実施ができる自然体験活動指導者を養成する講座を開催した（高知自然学校連絡会による企画・実施）。

### 2 開催日

平成 30 年 12 月 8 日（土）

平成 30 年 12 月 9 日（日）

### 3 対象

自然体験提供団体の方々、教育関係者・施設職員  
集落活動センター関係者、地域おこし協力隊  
高知自然学校連絡会加盟団体、その他希望者

### 4 会場

高知県立高知青少年の家



### 5 実施内容

県内各地で自然体験の場を経営、運営、提供されている方々を講師として招聘し、平成 29 年度から自然体験活動を企画し経営する実務担当者側の立場にたった「マネジメント講座」として開催した。

#### (1) セミナーガイダンス (0.5 時間)

#### (2) 活動の洗い落とし

##### ～課題の明確化～ (3.5 時間)

強みと弱みを明確化し、その原因から、スタッフとしてあるべき姿を発見する。

○自活動の棚卸から、現状の問題点を抽出し課題化する。

○課題の起因を解きながら、更に自分にとって真の原因を探る。

○自活動を整理してみる。

#### (3) 人が集まるプログラム企画づくり① ～再出発を考える～ (2 時間)

行き詰まりからの脱却から、再出発を具体化する。

○強みと弱みの要因から、課題解決のプログラムを創る。

○中期から単年度の活動計画の作成

○収支計画の作成

#### (4) 人が集まるプログラム企画づくり② ～再出発を考える～ (2 時間)

考えの共有と相互評価

#### (5) つながる仕組みづくり

##### 事例研究：自然体験型観光と自然学校 (3 時間)

自然体験活動のありかたを展望する。

○小グループでの事例検討

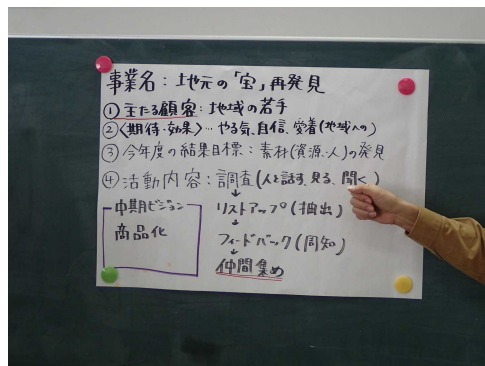
野外活動の振り返りとこれから

○自然学校とは

#### (6) 発表・振り返り (0.5 時間)

### 6 実績

研修参加者数：25 人



## 子ども地域学習推進事業 (森の子ども会議)

(生涯学習課)

### 1 概要

小学生から高校生までの異年齢の子どもたちが、森林・林業をはじめとする中山間の地域課題に対し課題解決のプロジェクト立案に取り組むことにより、課題探求、合意形成、アイデア出し、地域の巻き込み方などの基礎を学び、将来の森林保全や地域活性化の担い手の育成につなげる。

### 2 開催日と実施内容

- 1回目：平成 30 年 7 月 16 日（月）
  - ・山に人が巡る仕組みを考える
- 2回目：平成 30 年 8 月 19 日（日）
  - ・アイデアを具体化してみよう
- 3回目：平成 30 年 9 月 17 日（月）
  - ・巨大竹ブランコを作ろう
  - ～竹害対策の一環として～



- 4回目：平成 30 年 10 月 21 日（日）
  - ・巨大竹ブランコを使って、土佐山に人が巡るイベントを考えよう
- 5回目：平成 30 年 11 月 18 日（日）
  - ・オリジナルイベントを完成させよう
- 6回目：平成 30 年 12 月 16 日（日）
  - ・オリジナルイベントを成功させよう
  - ～竹ランタン作り～



### 3 場所

土佐夢産地パーク交流館かわせみ、ほか

### 4 実績

参加者 10 名（小学生 1 名・高校生 6 名・大学生 3 名）

参加者満足度：83%

全 6 回のべ参加者数 95 名（スタッフ等含む）



## 森林研修センター情報交流館

### 森林ボランティアリーダー養成講座

(林業環境政策課)

#### 1 現状と課題

森林研修センター情報交流館は、平成11年4月に、森林及び木の文化に関する情報の収集及び提供並びに学習機会の提供と、森林に関するボランティア活動などの支援を目的とした施設として開館しました。平成18年の指定管理者制度の導入に伴い、情報交流館ネットワークを指定管理者に指定し、管理運営を行っています。

情報交流館では、高知県の自然豊かな環境を次世代に繋げ、その尊さ、素晴らしさ、大切さを伝えていく人材を育成するため、森づくり、自然体験、木工クラフトの3コースからなる森林ボランティアリーダー養成講座を開催し、12年間で延べ457人の修了生を輩出しました。平成30年度は受講生のニーズ、受講者層の変化を踏まえて、森づくり講座以外の講座を1回～4回の短期講座にすることで、より多くの方に受講していただき、情報交流館の取組の周知とボランティア確保に努めました。(平成30年度の受講生実績は148名)



【森林ボランティアリーダーの活動の様子】

#### 2 実施した取組

##### (1) 森づくり講座 (全12回)

チェーンソーや刈払機の技術、関係法令や安全衛生などを学び、森林整備を实践すると共に、子どもたちに森林の大切さを伝える人材を育成します。



【間伐実習の様子】

##### (2) その他の短期講座

1回～4回の短期講座を14講座開催。木工女子講座、木工クラフト講座初級、中級、竹細工講座、グリーンウッドワークなど、木工クラフトにおいてもターゲットを絞って実施しました。



##### 【グリーンウッドワーク ゴッホのイスづくり】

その他、樹木医と歩く樹木観察会、森づくりのキホン講座、炭窯づくり講座、炭づくり講座、里山スワッグづくり、木のさじづくりなど、幅広い講座を実施し、沢山の専門家の方に協力をいただきながら、森を通して人と人が繋がっていき、森林を含めた自然環境に思いを寄せる人材を育成しました。



【樹木医と歩く 樹木観察会の様子】



【炭窯修繕研修の様子】

#### 3 今後の取組

ボランティア確保とリーダー養成が課題です。講座の修了生にボランティアとして定着してもらう為、切れ目のない情報提供、フォローを行い、そしてその中からリーダーを育て、次代を担う子どもたちに伝えていく人材を育成する仕組みの構築に取り組みます。

**県立牧野植物園**

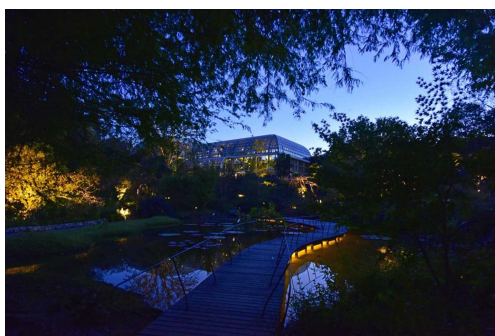
(環境共生課)

**1 概要**

牧野植物園は、高知県が生んだ植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰する施設として、昭和33年4月に高知市五台山に開園しました。

多様なニーズに応えるため、平成11年に「牧野富太郎記念館」、平成22年には新温室を整備し、平成30年の夜間開園の拡充、平成31年の憩いの場「こんこん山広場」や学びの場「ふむふむ広場」のオープンなど、進化を続けています。

植物園地は20.5ha（うち7.8haを供用）、主要施設として、牧野富太郎記念館（本館、展示館）、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場などがあり、レストラン、ショップ、カフェも運営しています。



南園の夜間開園

**2 運営主体**

公益財団法人高知県牧野記念財団を指定管理者に指定（平成28.4.1～令和3.3.31）

**3 平成30年度の主な植物園活動実績など**

牧野植物園では、植物に親しみながら、植物の大切さや自然環境の保護保全について改めて考えていただく機会を提供するため、各種教室やイベント、展示活動などを行っています。

**(1) 植物教室**

植物についての知識の普及を目的とした教室など、社会のニーズを意識した実践的かつ幅広い内容で教室を実施しています。

・「草花を描く」「ふれあい植物観察会」「園内薬草観察ツアー」「押花教室」など

**(2) 子ども自然体験教室**

いろいろな体験を通して子どもたちに五感で自然を感じてもらおうことを目指して実施しています。

・「竹でオニヤンマをつくろう!」「野菜博士になろう!」「秋の七草で遊ぼう!」など

**(3) 学習プログラムなど**

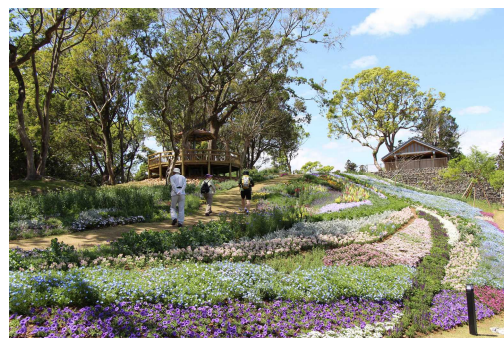
遠足や校外学習で来園される未就学児や児童生徒に対し、学習プログラムやクイズ形式の解説を実施するとともに、出前授業や職場体験など幅広く植物について学ぶ機会を提供しています。

・学習プログラム「フィールドクイズ」「空飛ぶタネ」「冬芽をみてみよう」など

**(4) 企画展関連イベントなど**

植物に興味・関心を抱き、植物園に足を運んでもらうきっかけづくりとして、植物や牧野富太郎博士に関連した催しや、生きた植物の展示や教室、夜間イベントなどを開催しています。

・「春のフラワーショー」「標本展」「植物スタンプリー」「ヒトツバタゴのライトアップ」「サボテンと多肉植物展」「オオオニバスにのろろ!」「夜の植物園」「五台山観月会」など



こんこん山広場での春のフラワーショー

**(5) その他**

来園者への展示解説・植物解説、園外への講師派遣などを行っています。

※平成30年度入園者数:155,535人

**4 研究型植物園として**

牧野富太郎博士の研究業績を受け継ぎ、県内の自然環境を保全するための研究、調査を実施し、野生植物の分布や生育地の状況の把握に努めています。

また、県内で栽培が可能と思われる薬用植物資源の品目の選定を行い、約90%を外国産に依存している薬用植物の国内生産を視野に入れ、県内農家で実証試験栽培を行うなど、研究結果を県の産業振興に結び付けることを模索しています。

さらに、ミャンマーやソロモンで収集した豊富な植物の有用性を見出すためのエキスライブラリー化を進め、県内外の大学や企業との共同研究により、新薬や機能性食品などへ利用可能な植物の探索を行っています。

※牧野植物園ホームページ

<http://www.makino.or.jp/>



## 県立甫喜ヶ峰森林公園（林業環境政策課）

### 1 森林環境プログラムの実施

甫喜ヶ峰森林公園は、昭和53年に開催されました第29回全国植樹祭の会場として整備された後、県民の憩いの場、児童・生徒の学習の場として多くの県民の皆様に親しまれています。

公園の設置目的である、「県民への森林に関する知識の普及を図り、もって森林愛護の思想を高める」ために、森林環境プログラムを実施しています。



【県立甫喜ヶ峰森林公園の様子】

#### （1） 森の贈りもの届けます事業

学校関係の利用促進と森林環境学習の充実を図るため、森林のしくみについての学習、間伐体験、ネイチャーゲームなどの体験プログラムを公園内で行ったり、学校などへの出張により実施しています。

#### （2） 里山林体験事業

里山林をうまく生活に取り込んでいた時代に行われてきたことや里山林の成り立ちや仕組みについて学習する機会として、しいたけのコマ打ち体験や収穫と試食体験などのプログラムを年間通じて実施しています。

#### （3） 森あそび体験事業

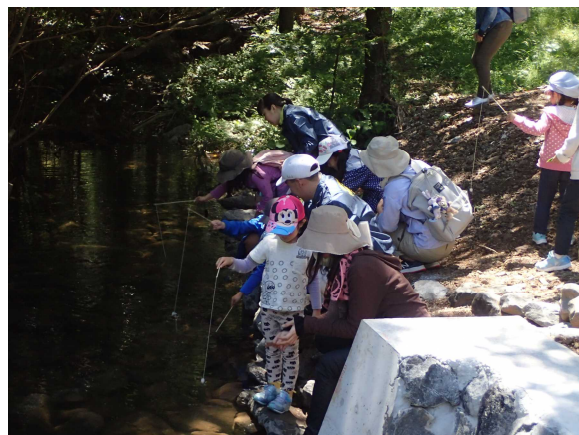
未就学児とその家族を主な対象として、森の中で葉っぱや木々で遊んだり、絵本の読み聞かせをしたり、焼き芋作りなどの“森あそび”を年間通じて実施しています。



【中学生による森林環境学習】



【しいたけの収穫体験】



【森あそび体験】